片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL　0258-84-3246
FAX　0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬淥氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

町民待望の佐藤邸跡整備
ふれあい公園いよいよ着工
スッタもんだも今は昔……

市は佐藤佐平治邸跡地を購入して、ふれあい公園として整備することを決めていたが、いよいよその工事に着手する。建物の大半を取り壊し、極く一部のみを残し、台所やトイレを造改築することにしているが、その業者も先頃入札で決まった。吉井陽・片貝町協議会長等のふれあい公園整備委員会メンバーは、市当局と最終的な意見交換をして、新たに街灯設置や門柱の移動などを要望した。

佐藤邸跡は約4、000㎡で、市は地元の要望に応えて、約4、900万円で購入して、ふれあい公園として整備することを打ち出していた。この購入を巡っては、極く一部の住民から「買わないで寄付してもらえば良い」「違う場所でもっと広い場所を」などの意見も出ていたが、市が購入して公園整備を打ち出すと、今度は「公園よりも福祉施設を」との意見が出され、当局や地元協議会もその都度対応に苦慮、住民からは「こんなことでは、まとまるものもまとまらない」と心配する声もあがっていた。これらのいくつかの困難を乗り越えて、ようやく実現の運びとなった。

地元から「建物を使いたい」との要望があったため、市では専門家に依頼して強度をチェックした結果、強度的には問題なく、手直しすれば十分可能と診断されたので、一部を残すことになった。市は昨年10月2日に地元役員に対し、母家の一部約330㎡を残し、台所やトイレなどを増設する青写真を示し、最終的に地元の合意を得ていた。

入札の結果、㈱本田建築（平沢）が落札、近く工事にとりかかることになっている。庭の整備は、建物が完成してから着手することになっており、建物の取り壊し増築及び庭整備など全てを含んだ今年度当初予算5、000万円が計上されている。

吉井協議会長等役員は着工を目前にしたこのほど、市当局を訪れ、最終的な意志確認を行なうと共に、防犯及び青少年の非行防止策をも含めて街灯の増設を要望。また、自動車が横づけ出来るよう門柱の移動も強く要望、市も前向きの対処を約束した。

長年かけてようやく実現が目前となり、喜んでいる住民も多数。早くも清掃奉仕を話し合っているグループもあるとのこと。

なお、取り壊しを前に、市社会教育課は県文化行政課職員に同行を依頼して、佐藤家に伝わり現在も建物内に残されていた古文書を調べ、ダンボール5箱を運びだした。これらの古文書はくん蒸して市社会教育課で保管、ふれあい公園完成後は、地元の意向を尊重することにしている。また、小千谷市史にも写真が掲載されている第十九世佐藤佐平治三省の木像、第二十二世佐藤貞太郎の木像、掛軸などは片貝支所で管理している。

主張

参議院選挙と小千谷市政

懸念された低投票率は見事に覆えされ、一向に上向かない不況は大きなうねりとなって参院選を襲い、結果的には自民の大惨敗となり、後釜なく長期政権かと国民を憂慮させた橋本政権に、引責辞任という大鉈を振って幕を閉じた。

市政と参院選とは関係ないというものの、星野候補の市内での大量得票によって政治的に結着したかのように錯覚している人もあるようだが、その実、情況は選挙前と些かも変わりなく何ら進展していない。

確かに現広井市政が星野氏らを中心とする力によって、予想外の大勝をおさめ誕生したことは何人も認めることであるが、一年後の今日、市民が当時の侭の状態で評価しているとは到底考えられない。

助役も収入役も不在どころか一年も経つのに、噂はおろかその氏名すら一回も市議会に提出することなく、徒らに給食問題に固執し遂にその実施を遅らせたり、法治国家にありながら司直の判断も待たず行政処分を行い、不起訴処分になっても自己の正当性のみ主張、法の決定を否定する等、全国に例を見ない異状な情況を市民はどう理解すべきなのだろう。

歴史的にみて日本は「恥」の文化といわれ、恥＝不名誉＝責任をとる、ということに異様な神経をとがらせてきた。その最たるものが切腹という行為で、これによって武家社会が成り立ってきたといっても過言ではない。もとより民主主義の現代そのような行為が赦される筈もないが、他人にとやかく言われるまでもなく、自己判断によって進退を決することは別に悪いことではない。

それにしても最近は政、官、財どこをとっても、この責任をとるという行為がなく、一億総無責任時代となり、それが今日混乱を来している元凶だと論ずる学者もいる。

この恥と平行しているものに「和」ということがある。聖徳太子の十七条憲法にあるあの「和を以って貴となす」の和である。

たとえ天皇や将軍、幕藩体制下の殿様であっても、自分の気ままに事を進めるという絶対的権力は認められなかった。

天皇以下彼等とて以前と比べてあまりにもかけ離れた独善的な行為や主張は「主上御謀反（むほん）」や「ご病気」「ご不快」といった言葉がのこされているように、臣下によって和を乱す者として排除されてきている。

今回の参院選で責任をとって辞任した橋本総裁の後任小渕氏にしても、世論とは裏腹に「調和」を重んじた結果だと報じられている。

国政を除き辞職勧告という為政者として最も不名誉な判断を下されても、恋々としてやり遂げなければならない政策とは、一体何んであろうか市民に示してほしい。

市民の調和や幸福を意図しないとしたら、民主主義の現在残された途は唯一つしかないように思う。この際今度は市民が腰を据えて考える時を与えられたようだ。

入賞は全て市外参加者
将棋大会

片貝将棋愛好会（佐藤国雄会長、16名）は、第24回片貝町将棋大会を7月19日午前9時からふるさと会館で開催された。有段者相当の「名人戦」と級位者相当の「竜王戦」に分かれて、変則リーグ戦方式を繰り広げたが、参加者は長岡6名、見附6名、小千谷6名、十日町6名、片貝8名の参加者で、名人戦、竜王戦共に入賞者は全て市外勢が独占した。

片貝将棋愛好会は昭和55年6月に発足。現在、毎週金曜日午後7時半～10時、ふるさと会館二階和室で練習会を行なっている。希望者は活動日に会場へ。初心者歓迎。

環境問題講演会
リサイクルかたかいが

リサイクルかたかいは、7月17日午後7時半から片貝公民館で、地域のゴミ・環境問題に関する講演会を開催した。講演は桃井清至長岡技術科学大学教授による「生活排水と水質汚濁」。桃井教授は油汚れは紙で拭きとり、米のとぎ汁は花にやるなどして生活水を流す量を減らすことや、下水道の役割、またリサイクルの大切さにも触れ、リサイクルを積極的に取り組む行政は財政も健全化する、と語った。

JA片貝町ふれあいドッヂボール募集

JA片貝町は、第三回JAドッヂボール大会を、8月9日午後1時から片貝中学校体育館で開催するが、参加チームを募集中。▽参加資格＝片貝在住か在勤者、▽チーム編成＝男女共一チーム十二名以上、但し男子は四十歳代二名以上、五十歳代二名以上が常時プレーに加わること、▽競技ルール＝新潟県ドッヂボール協会の公式ルールに基づく。参加賞、賞品多数。

町民運動会
今年は10月11日

7月2日㈭片貝町協議会と片貝町体育協会の合同役員会議が開かれ、第52回町民運動会（スポーツフェスティバル）の基本方針が決定した。それによると昨年初めて開催形態を大幅に変えたが、あいにく雨天のため全種目開催ができなかったので、今年も昨年同様の形態で全種目の開催をしたいとのことで意見が一致し準備を進めている。

尚日程は今年は連休となるが、例年同様10月第2週の10月11日㈰に開催予定。

茶畑自主防災会発足
7月19日放水訓練行なう

茶畑町内会（神林梅吉町内会長、45世帯）は、今年の3月の総会で「茶畑自主防災会」を発足させることを決めていたが、このほど小千谷地域消防本部から、自主防災組織に配給されるヘルメットやライトなどが届いたので、7月19日消火栓の放水訓練を実施した。

茶畑は自主防災組織としては片貝で二番目、市内では16番目の発足とのこと。会長には町内会長が就任することにしている。発足にあたり町内会独自で防災本部旗1本、消火栓ホース3本、管槍1個、ホース収納ボックスなどを約十万円で購入した（補助70％）。

19日午前6時から毎年恒例の酒座川の草刈り作業を行ない、引き続ききれいになった川へ向け放水訓練を実施した。

民踊教室募集
一緒に踊りましょう

片貝地区民踊教室（片貝公民館主催）が8月5日と19日、共に午後7時半～9時まで、片貝スポーツセンターで開催される。安達良太氏を講師に、ソーラン節、男三三七拍子などを習う。上履きとうちわを持参のこと、参無料、希望者は会場へ。

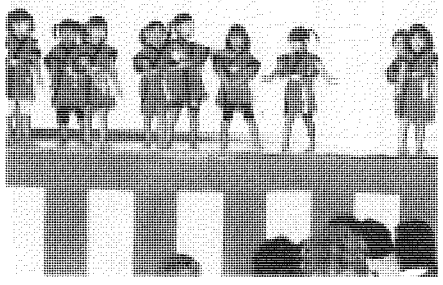
かたかい春秋

談合疑惑問題で、広井市長は独自の判断により、談合はあったとして建設業者を指名停止処分した。ところが検察庁は嫌疑不十分により不起訴処分を決めた。なのに、広井市長は指名停止処分を撤回しようとしないのは、何とも理解出来ないことである。▼広井市長は「行政処分と検察庁の判断は違う」と強硬姿勢を崩そうとしないが、行政処分も検察庁の下した判断も、同じ談合疑惑を対象にしているということを読者はよく理解すべきである。▼市長は「談合があったことは間違いない」とことある度に繰り返しているが、物的証拠を一度も示したことがないのである。思い込むのはかってであるが、その思い込みで行政処分することは何事ぞ。市長にその権限が与えられているからといって、それを振り回されたら、そこには公平・公正というものは微塵も存在しない。▼個人が「正しい」と思い込んでいても、他の立場から見れば正しくないかも知れない。小千谷新聞の市民の声に載っていたが、そうだからこそ交通整理のために法律や規則があり、どうしても解決や判断が難しくなった時に、司直の判断を仰ぐということになるのだと思う。その司直の判断が不起訴処分と出たのであるから、市長の判断は誤っていたのである。▼この責任は重いが、チェック機能たる市議会は何をしているのであろうか。まさか、辞職勧告決議案を可決しただけで終わりにするのではあるまい。これだけ独善的で、しかも私憤・私怨としか思えない7カ月、8カ月、9カ月という重い行政処分を下す市長の行為を見過したままにするのか。機はとっくに熟しているのである。鉄は熱いうちに打て!!

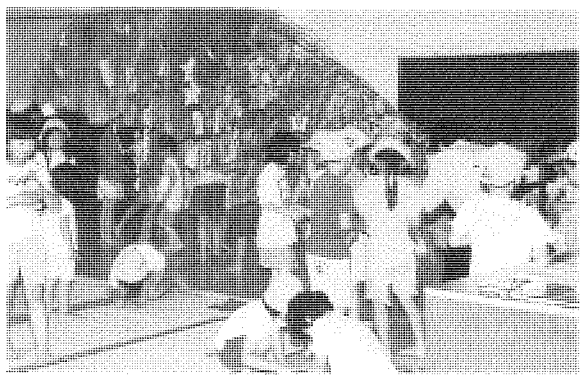
第15回芸能まつり盛況
かわいい踊りに拍手も

第15回片貝芸能まつり（片貝公民館など主催）が、7月19日午後7時から片貝小学校南運動場で開催され、約200名が訪れ賑わった。参加団体と発表は次のとおり。

①片貝伝統芸能保存会＝木遣としゃぎり、前歌、道中木遣、巫女爺、伊勢音頭、追分、品玉、②片貝民踊の会＝舞踊、川の流れのように、飛騨川みれん、惚れました、③片貝ことぶき会＝箏曲、花、エリーゼのために、④めぐ美会＝踊、父娘坂、郡上節、新木遣りくずし、⑤三友会＝三味線・太鼓、津軽登山ばやし、越中お原節、秋田船方節。



七夕まつりに楽しい企画
よみきかせ会が



ボランティアグループの読みきかせ会は、7月4日午後1時半からふるさと会館で、七夕まつり特別企画を実施、小学低学年を中心に約60名が参加して楽しいひと時を過ごした。

子供達は自分の願いごとを短冊に書いて竹につるし、ふるさと会館の玄関に飾った。続いて七夕にまつわる話しや絵本の読み聞かせ、手作りの紙芝居、ゲームなどを楽しんだ。

片貝よみ聞かせ会の8月の活動は7日㈮2時30分より市図書館の線陰移動図書館の共に片貝保育園で、8日㈯午前10時～、21日㈮午後3時～、ふるさと会館。

創立50周年記念 JAフェスティバル盛況

ユニークな種飛ばし大会も

JA片貝町（友田明石組合長）は、創立50周年を記念してJAフェスティバルを7月22、23の両日の夜をメインに、JA車両センター前広場で開催した。

会場には所狭しと農機具を初めとする展示商談会や展示促販売会、職員が汗を流してヤキソバ、ヤキトリ、タコヤキ、ポップコーンなどの模擬店販売も。女性部は新鮮な野菜やゆりの花、漬け物、廃油せっけんなどの手作り〝商品〟の販売を行なった。また、はずれなしの抽せん会は大人気だった。会場では職員手作りの涼味満点のそうめん流しは、子供達の人気を呼んでいた。

23日午後7時30分から、アメリカンチェリーの種飛ばし大会が行なわれ、子供の部と大人の部合わせて80名が参加して、賑やかに繰り広げられた。

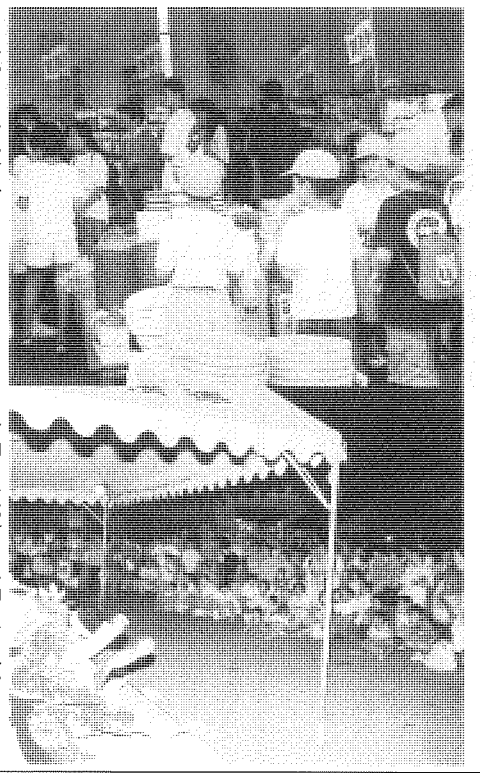
記念事業の一環として、'98JAフェスティバルゲートボール大会が、22日朝から、屋敷ふれあい広場特設コートとJA片貝町生産課コートに15チーム、87名が参加して開催され、寺町ヤヨイ会が優勝した。

今回優勝した寺町ヤヨイ会は8月3・4の両日北魚沼郡湯之谷村で行われる㈱農協観光主催の第14回中越地区JAゲートボール大会に出場する。成績は次のとおり。

▽優勝＝寺町ヤヨイ会（中野卓、小川政利、相崎良雄、小林計助、木曽慶喜、相崎清一）
▽準優勝＝第一ヤヨイ会A
▽三位＝第四ヤヨイ会B
▽三位＝第一ヤヨイ会B

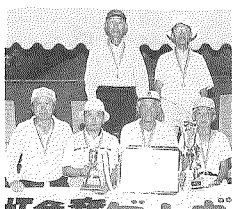
タネ飛ばし大会の入賞者は次のとおり。

▽小学生の部（参加者50名）①神林義博（6年）6m82cm、②大矢健太郎（6年）6m66cm、③石黒雄次郎（5年）6m35cm
▽一般の部（参加者30名）①本田正史7m90cm、②目崎慎吾7m68cm、③神林誠一7m55cm



▶賑わう促売会場

▶手踊り披露に見物人多数



夏休み中の子供の非行防止について

片貝駐在所　山西史雄

夏休み真っ盛り。楽しい筈の夏休みも、脱線が過ぎるととんだことになる。そこで親子共々注意すべきことを、片貝駐在所の山西巡査部長に聞いてみた。

◇　◇

片貝、高梨地区の子供たちは、夏休みをどのように過ごしているでしょうか。

学校での規則正しい生活から解放されて、それぞれ楽しいプランを立てていることと思います。夏休みは、海水浴、キャンプ、お祭り、お盆、旅行などと外出の機会が多く、行動範囲も広くなり、生活環境が大きく変ります。そのため、日頃の欲求不満や解放感から気のゆるみが生じ、非行に走りやすい時期です。

全国的に、少年非行の増加が続いており、刃物を使用した凶悪犯罪や覚せい剤の乱用、さらには遊ぶ金欲しさの性非行等が大きな社会問題となっており、深刻な状態が続いております。

新潟県の少年非行も、昨年は、前年に比較して二二・九%増加し、特に傷害恐喝といった粗暴犯罪や非行の入り口といわれている万引きが増加し、今年に入っても万引きを中心に増加しております。

また、小千谷署管内でも少年犯罪が増加しており、今年六月末現在の少年補導状況は、四五人で前年同期より二一人増加し、そのうち万引きは二五人と五五・五%占めている状況です。

万引きの理由は、

「品物を見ているうちに欲しくなった」

「見つからないだろうと思った」

「友達もやっている」

「一度やったら癖になった」などと簡単に考えている少年が多いようです。

これは家庭における放任、無関心など社会全体の規範の低下が背景にあります。

長い夏休みは、家庭の在り方などを見直すにはよいチャンスです。

家庭ではこの機会に、

○親子の会話を増やし、万引きは泥棒であること、社会には守るべきルールがあることを教え、正義感や社会のルールを守る心をはぐくむよう心掛けてください。

○過干渉や過保護、甘やかしをやめて、自分の行いに責任があることを気付かせ思いやりの心を育ててください。

地域では、

地域ぐるみで時代を担う少年を育てる機運を盛り上げ、子供たちを地域におけるスポーツ活動、地域行事や奉仕活動などに積極的に参加させ

○規範意識の啓発　○自立心の向上

などを地域ぐるみで取り組み、子供たちの非行を見たら、見たか見ぬふりをすることなく、その場で愛の一声をかけてやりましょう。

特に、目にあまる子供たちのたまり場などを見つけましたら、駐在所に通報してください。

スーパーボーイズ優勝

東北電力ミニバスで

県ミニバスケットボール選抜優勝大会兼東北電力旗第十一回東北ミニバスケットボール県予選会長岡（中越）地区予選会（県ミニバスケットボール連盟主催）が去る6月27(土)・28(日)の両日、長岡市市民体育館で開催され、片貝スーパーボーイズが優勝した。

片貝スーパーボーイズは平成9年度のBSN杯で優勝していたことからシードとなり、二回戦から出場した。初戦十日町市ミニバスケットクラブに45対9、三回戦ウィザースに60対8、続く準決勝も信江JBC39対22で勝ち決勝戦へ駒を進めた。決勝戦では宮内小学校を46対37で下して優勝し、7月11(土)・12(日)の両日、新潟市鳥屋野総合体育館で行なわれた県大会に長岡（中越）地区代表として出場。県大会では、一回戦加茂南小学校に52対24で勝ち、続く二回戦小針パワーチーターズに善戦空しく36対32の小差で敗れた。メンバーは次のとおり。

▽黒崎諒、大矢智史、山田貴弘、高野克也、吉井雄介、小林孝広、高野文彬、浅田直樹、神林和也、南雲祐太、芝大輔、小野塚巧、浅田将吾、大矢拓良、吉原紀人

ベルマークでキーボード贈る

3年生以上の各クラスに

片貝小学校では学校・父母・児童が協力してベルマーク集めに一生懸命とり組んでいる。去る5月24日、平成10年度第1回の収集作業を行った。その際関係者が協議した結果、平成9年度までのお金で1、2年生の各クラスには有るが、3年生以上のクラスにない、楽器の「キーボード」を購入することに決まり、先日（7月9日）学校に8台のキーボードが届いて、児童たちが使用している。

「多くの町民の皆さんの協力の御陰です。ありがとうございました。ひき続き協力をお願いします。」と担当者。

収集箱は片貝小学校、片貝中学校、片貝保育園、JA片貝町生活センター、佐藤写真館、八百産、魚金に設置してあるが、小学生に直接渡しても可。

ベルマークはノート類、ラーメン、焼ソバ、ガム、チョコレート、カレー、ハミガキ粉、マヨネーズ、フイルム、ティッシュ、冷凍食品、マカロニ、サラダ油など多数の商品についている。

中学校中越大会

バスケは三位入賞 バレーは二回敗で涙 卓球は個人頑張る

中越地区中学校の各種体育大会が7月8、9の両日開催され、片貝中はバスケットボールが三位入賞で県大会出場、卓球でも個人で2名が出場権を獲得、しかしバレーボールは二回戦敗退で涙を呑んだ。

バスケットボール大会は、越路町民体育館で開催され、一回戦はシードされ二回戦から登場、二回戦は

片貝32（18—13、14—13）26東北

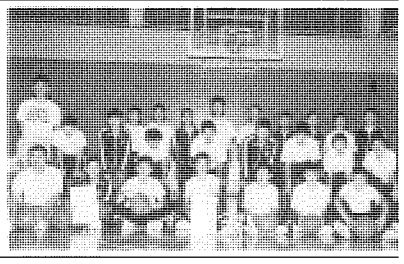
三回戦は

片貝67（38—7、29—23）30中之島

で順調に退けたが、準決勝で宮内中と対戦、

片貝36（7—26、29—20）46宮内

後半は優勢だったものの、前半の苦戦を挽回出来なかった。県大会は7月28、29の両日小千谷市総合体育館で開催された（結果は来月号）。メンバーは次のとおり。小比田隼也、安部勇樹、山口透、小比田弘樹、高橋一明、浅田和穂、大矢諭志、佐藤佑一、小林亮太、目崎慎吾、市川慎吾、吉原佑、本田祐輔、山口直紀、吉田英



卓球は小出郷体育館で開催され、団体戦は一回戦は堀之内を3対2で破ったが、二回戦で今町に2対3で負けた。個人戦は堀井薫選手（3年生）と小林奈美子選手（同）が、共に入賞は逃したものの、三回戦まで駒を進め県大会出場権を得た。

バレーボールは田上町民体育館で開催され、一回戦は

片貝2（15—1、15—1）0大島

で圧勝したが、二回戦は

片貝1（12—15、15—13、12—15）2越路

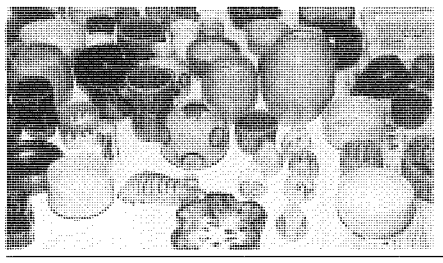
とせり負け涙を呑んだ。

ソフトテニスは三条・燕総合グラウンドで行なわれ、一回戦で与板に0対3でストレート負けをした。

陶芸クラブに入りませんか

片貝町公民館では、9月中頃発足予定の「かたかい陶芸クラブ」（仮称）の会員を募集している。担当者は「今まで趣味でやっていた経験者、又これから陶芸を趣味にしたい未経験者、老若男女を問わず、色々の人が集まり、写真のような色々な品物を作り、陶芸の面白さ!!楽しさを味わえる〝クラブ〟を作りたいので、多くの人々の入会を!!」と呼びかけている。

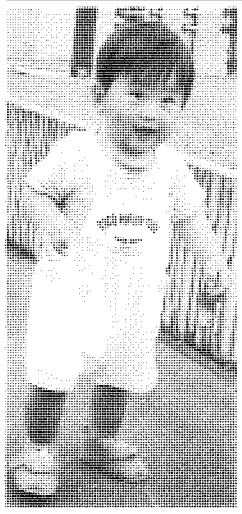
尚、申し込み・その他詳しい事は、片貝町公民館TEL84—2026番へ。



又片貝公民館では、子供たちの夏休みの自由研究の手助けが出来ればと、8月9日午前9時～3時まで、講師に上ノ山の佐藤守先生を招き、「親と子の陶芸教室」をふるさと会館で開催する。

ハローベイビー

○木曽滉太ちゃん（一之町四区）
パパ光夫さん（29才）
ママめぐみさん（27才）
第2子次男
平成9年6月30日生
現在の体重11kg身長75cm
Q名前の由来
Aパパの名前の一字をとって、たくましく太く育つよう滉太に決定。
Qお子さんの様子
Aお兄ちゃんに転ばされようが後を付きまとって遊んでいます。
Qどんな子に育って欲しいですか
Aどんな子に育って欲しいのびのびと育ってほしい。



片貝ヒューマンウオッチング

白井さん、伸竹会を語る

市役所を退職後、同級会の伸竹会の仲間と共に清掃奉仕に意欲的に取り組んでいる白井スマ子さん（62、屋敷町）に登場願った。

伸竹会がボランティアを始めたきっかけは、還暦を過ぎて現役引退する人も多くなってきたので、職場において第一線で社会参加していたことと形を変え、何かをしなければ、との考えを提案したところ、メンバーの賛同を得ることが出来たこと。白井さんがいいだしっぺなのである。

当初、佐藤邸跡の公園の草とりをしたら、ということになったが、公園がなかなか出来ないため、自分等が中学を卒業する時に植樹した桜の手入れはどうか、ということになりスポーツ広場周辺の草取りやゴミ拾いを始めるようになった。昨年の4月から始めて既に20回実施、延参加人員は205名となっている。

一人では何も出来ないし、実行したとしても微々たる成果でしかないが、大勢の力はすごい、が活動を始めてからの実感という。そして紙面を通じて是非一言「スポーツ広場に集まる人達の中に、マナーが悪い人達がいる。車の中に貯まったと思われる大量のタバコの吸いがら、ジュースの缶の投げ捨て、時にはタイヤなどの粗大ゴミもある。片貝人のひとりとして悲しくなる」と訴える。

まとまりがよく、実行力があると観察出来る伸竹会については「男性陣が優しいし、実行力がある。とても素晴らしい同級会、私の誇り」と絶賛する。そして成人から還暦まで人生の節目〈に全員が心をひとつにして、打ち揚げた花火、その時々の皆の充実した表情、大きな感動は忘れることが出来ない、とつけ加える。

この伝統をいつまでも片貝に残したいと願っており、そのために「若い人達にもう少し町のことを考えてほしい」と注文をつけながら「かたかい組のようなグループが沢山出来るといいのに」と続け「〝片貝町の良いところは何ですか?〟と聞かれたら〝若い人が頑張っていることですよ〟と答えられる町でありたい」とニッコリ。

夫と二人暮らし、趣味は花つくり、ストレス解消法は友人とのお茶のみ。新しく民生委員となり、こちらでもはりきって活動中。